

人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	岩橋 宗哉
--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992年 九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。

（1）現在まで、主に病院において精神分析的な心理療法を行ってきた。治療関係の中でクライアントの内的世界をともに体験しながら、対象関係論的な観点からクライアントの転移を理解し、その理解をもとにどのようにクライアントに関わり、理解を伝えていくことが治療的であるのかを明確にしていくことを最も重要な研究分野としている。（2）どのような立場に立つ心理療法であれ、クライアントが主体になることを援助している側面があると考え。主体的になることを援助するかかわりとはどのようなものか、つまり、多様な心理療法に共通する中核的なかかわりとはどのようなもので、それを現実に行っていくためにはどのような条件が必要かということをはっきりとしたいと考えている。それは、臨床心理行為を明確化することでもある。（3）臨床心理士養成の初期段階で、臨床心理行為の重要性と特性を習得するための養成モデルを構想していきたいと考えている。（4）神話や文芸作品についての精神分析的な観点からの理解。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- ・ 岩橋宗哉 『彼岸過迄』の二人の主人公 日本病跡学雑誌 第106号 2023年12月
 - ・ 岩橋宗哉 『彼岸過迄』須永との比較からみた敬太郎の造形についての検討 日本病跡学雑誌 第104号 2022年12月
 - ・ 岩橋宗哉 『彼岸過迄』須永の「内へとぐるを捲き込む性質」について 日本病跡学雑誌 第101号 2021年6月
- #### <分担執筆>
- ・ 春日由美・五十嵐亮編「現場で役立つ教育相談入門」第12章第3節成人期の心理的不適応,第13章第1節心理療法の学派と心理療法. 2023年11月

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ シンポジウム「漱石の文学研究とパトグラフィとサルトグラフィ」
岩橋宗哉 『彼岸過迄』の二人の主人公 第70回 日本病跡学会総会 大阪 2023年7月
- #### <翻訳>
- ・ M.ホジャット・A.モイヤー「友人関係の心理学」 第12章 友人関係における侵害,赦し,報復 金子書房.東京.2024年2月

③過去の主要業績

- ・ 岩橋宗哉「対象とのとの同一化を創造的に機能させる基盤としての結合対象へーよい対象との失われた共通基盤を求めてー」『福岡県立大学心理臨床研究』第7巻 2015年3月
- ・ 岩橋宗哉「対象喪失」とその乗り越えに向かう神話としての古事記上巻（I）ー「不在の現実」についての「見るなの禁止」から「居場所」の形成へー」『福岡県立大学心理臨床研究』第5巻 2013年3月
- ・ 岩橋宗哉「結合両親像によって破壊され創造される自己の方向感覚ー精神分裂病者との心理療法過程からー」『心理臨床学研究』第17巻第6号 2000年2月

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会、日本病跡学会

6. 担当授業科目

（学部）心理学的支援法・2単位・2年・後期、心理実習Ⅰ・1単位・通年、臨床心理学概論・2単位・3年・前期、心理演習・2単位・3年・後期、演習・2単位・3年・通年、心理実習Ⅱ・1単位・3～4年、心理実習Ⅲ・1単位・3～4年、教育相談・2単位・4年・前期、卒業論文・6単位・4年・通年、（大学院）臨床心理基礎実習A・1単位・1年・前期、臨床心理基礎実習B・1単位・1年・通年、臨床心理面接特論・2単位・1年2年・前期、臨床心理学特論・4単位・1年・通年（後期担当）、臨床心理実習・1単位・2年・通年、心理実践実習A・10単位・1～2年・通年、心理実践実習B・2単位・1～2年・通年、特別研究Ⅰ・2単位・1年・通年、特別研究・4単位・1～2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 久留米大学病院精神神経科附属カウンセリングセンター臨床心理士
- ・ 福岡県臨床心理士会代議員
- ・ 田川市教育支援委員会委員長
- ・ 日本心理臨床学会誌「心理臨床学研究」編集委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等